別13
25
28

あつもり

末七

国立国会図書館　タイトル『あつもり』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

13-28

あつもり

我もしくはまゐび平家一乃たゝかのかんせんに
はいもんさふひ大将そうじてはいと十六人れ
くゝあし乃そのなりにものゝあらまをとゝめ
志へ志やうこく乃法をとゝ法をもりの法を息
にむくまん乃太史あつもりゆくそのゝあらまを
我とゝめたりその日れは志やうぞくいへ
すぐれてをるやう也むめのまゐひのをこよせ
乃ゆうなりてかゝらくまゐる井我めされ祈り
ぬきていろしくのいとをこへあきれ野に

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

平家うしこまをさそていふのき大将と見えしゆゑ
かうゆ法ものをいふ者とお用しめす武蔵
乃国のちうゐん志のこうれたこうしらくま
うへ乃ぬらな我さ〇うしふ紀よをひくいふのき
かうきはそまきなくもうしふ紀より獲れあけ
まきさうりて我ゑせ給ふそのうれひめ也
法せうふかへいふしくとてをのかけ中あら
いさいしやあ川りくまうへとさしめし
のうまうしくまお用しめされけまたあまま
御うせて落させ給ふうまをのさしろまとう

このおきを法給ふすまけ法産ふ〇まちうくう
うんてありあのふ〇我ま称紀ゑせのらふを
そのとお用しめしこしふ里をくまる井に日
御しこうあふきねきいてさしう里とひらうせ
給ひて　おきなうふ〇をめまうけてひら里
しくとお称う前せんちう乃人くすひく
志をしそおかきふうとまきあいたらんして
おろうけむしやの紅まゑ称くい左馬ゆさ
りりうむくまん乃大夫あ川りりうあまをゑ
との清ちやうあり恵七兵衛形りふみたりま

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

法門こうりあらりなきなることを法えまほきふことを
ぬいてき門とこそていこりしの法事や何と
して法雅私に弟しをくれさせ給ひまん法ほ
そり乃法子息まむくまんの大夫あ門りりまて
まこら世給ひはそやめされこう法むまれ毛
よろひ乃まふいこう迄海ふところまし
まさはいこりしさよとゆくりうとまき度ま
きこしめしあ門りりなこもあのふほ我なし
よせてこすけよまいしめもうんとりうけこ海
りりろういからをこそなをし私我なほさへ

よせんとすれ此事と二三月ふきしありこう小
風乃なこりのなこまけふもた門う殆いきか
松門てなこまあうしやのことく也こくらう
せういをあらひいさことを天下あく建はこし
ゆきのやまのあとくなりせうせんこそをの
法ありこうまへもめくへも思ふさ海ゆはあ門
うはなまあとふすくれこう大せんま大勝い
弟されたりこしむなこりしせうまほし次第
くふい門まはいそへこうなきなういなし

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

あつもりのよし我は発していやしくこの
ひま我をようせてあのみのらふすまの
とおほしめしとまゐまつかういろりて海上
ふうろひくう夜ねあつもりをようせらるく
いさいしやあつもりらうひしやかくまし
まさんさんはすのりさうつくときしくしゑを
さてさ海いく法ひまいりちものありゆきれ
法雅私よるんなくひまいはくをきよわりむ
しやゐかるしさいひまよまもるれてうれりし
とおほしめされをろにひさ海へうさふのり

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

無くさう乃あふことをはらく嬰ミ量つるかを
うり給ひこう或ね志川こねをようせらうし
馬いちこへとはまゝせたうむなこまぜられ
はくをよきかひてそ見こにきろくまうへ心
よし我見まのこせまさなの平家やおきれは
座ふひいたうふかとを見こそはくしうを
なこう物あらふしていてうなりせ給ふ見き
ひのうへしはせうふあまさなき相なくはなる
さしをまのうせんとゆこと矢をうらはうへ
さく物ゝくうゆまりあ川りは給ふしてなすう

しくさひ矢ま射あそられ一こんのな残りと
思ひこ海乃そろれ知川うへ志くと我あさに
なりしうはこ川まりたゝのとけこそそあるの
うふうらはうひううこそ思へし給ひはま
あ川さゆこ矢をさしたけてひくと紀い
五寸事をはしろうそこきこ
くまうへもあろあろうとりまてあ川と思ひ
さうあふこをけるる川て五寸と抜かし
くくうくたうり
いさはきろさやさ川まんとおもひしに

歴といふ事まつらそこしまる
のやうまいしてまらうけゆゑ
あれをりゆゑと矢をかゝまとそれをうは
ぬんぬいてうけえんよとそうしまうり

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

熊若さうまとうけなりしゑくなる後してちゆう
とう川二うち三うちちやうしとおあらせ
きれとをいり川まをせうふ見えさまはよまく
まんを川ともとてたりひようら抱かうまと
すゑ羅のそそ我ひつちりへむまとくんて二
人ゟ夜馬乃あひかとうとおろう　あらいて
りしやあ川りり清あ後ハ　けくいさませ
給へともらうむしやのくまうへまそをの
かすとはせさりやまくしと新さ抱さへ
ゆふとちきりてうらまとまそこしれうらな

就んぬいて首をとるもんとあらうしゐあまり
まよりくおりひさしう川ふひてさうりうを
見えてまり川るかうすけしやうりかしくろく
まも海とうちうせさをやてしなきてん志ゆう
人乃辛まいなるは十四又うと見えさせ給ふ
熊若あまりの乃いさりしさふまとうしろ川ろけ
ゆよらうまをいけかさかをひとへいなり
きんさうまそ海しますそ此名字を清名のう
ひへあらいさりしやあ川りりらうむしやれ
熊若ゆくとあられさせ給ひよふくろしけ

乙

国立国会図書館　タイトル『あつもり』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

をあり面しそれかうしらぬ掬なるゝかれ
くるん志やは見せしとへ　りたのくるんしやか
見志らしはこのそひ平家のいけとりのいり
かくおかくあり面きよりむけ見せてとへ
そきかうしらぬものなるは名をなさそのく
くひそとおりひてくさむらりしてとけよ
すそくの故は屋うをなし磯苔としそ給はき
くまうへ取く梅は上ちうはふしれいさめり
かうをはくりしは志ろしめされぬや世なり
そのうち名をまらふくはきこれ法ま志ら

うつく男をたすきんとまはれ親とあらそひ
子とたらひたらうさんはたゝとのゝ法くりは
ふしのなるひるり　花乃そとの事目れかく
月乃海人の一歌れとも世はふうらうきん花
蔵乃たれ姫まも今生なるぬきしんと義ら
あのうひれ合戦よ人志をこそ抜かきふくま
うへかまりあふ変をせん世の事とお用
見しは名家ゆへ法くひを結くさくまれそ
ちうふ後世をとふらひ申面し　あれりも
ゆるなのらしそのとは抜りへたお勝をとりん

もうまし さふさうもなくそうす為しまま
をばこまとの思ふらんうとまきれば○もり
乃三るんおいまうさむくるんいうりなまて 山東
あれりり生年五十六歳(さい)いくさ見うもしめ
なりさのこそしそのなくろ○そよもやくひ
とれやくまうへよ

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

くまかへうけ　海ゆかりくさそ　其上らうい
くまんむ乃は　まゑまそ　御座ありまゝやるに
は年　其十六さいるにかしかちやくしは
に御ら　其年十六さいすまゝりるゝ扨い
は同年　年系ひけりやかりくなきに御ら
ゑめまろく　くろくるさけ　を志らぬあ川ま
志ひまと思へ　其我子とおもへ　其梅花ん也あら
むさんや　蓮家　る我ざ　りろとも　今鈴一は苔
乃をふ　まそ　うゝ紀　海まいの三郎かゝる川
夫をな我いへかゆんまのうひるにうけとめ

なにかしにむら同く夫ぬいてくへとゆせし
我いてゝかうすてうゝ問ゝやと扨りひしか
いやしくまかへ　はとはゆゑとりかかゝき
みかゝ乃まの海へにくとふ　色きうくおもひ
ゝんゝくにゝんてあらゆいようひなの　蓮家
やまゝ　大事なるゝそこすてゝをきれ
又うすまそあるゝ　はかゝ紀とあふゝ　討
志に我せよ　味方乃　附を枕とし志のこうは
名をしくゝするといひてあまは海しくそと
扨りひるにかしかゝ我こゝ一月見かゝ紀

のちんへかけ入くまりそのうち又二めとこそみ
さりしなりさそをくまよう人に候まじく候
なすらへ武蔵の国よくらりな彼の人にうちく
ふあひてうつまじくとはふ身るはうんろ
のちくのなけく御しは御もりとやるんこ花
のやうなる君様なりききり一人残しおき
さしそるけり世捨ふらん候御ありの候ぶう
うんとさてなき彼さ御に都のりひとはこそのより
ましくたとふまそ里うまいをまし　ある道
きふち敵のうちるしくなり　熊谷あをまりけ此

いさりしさうふ又さうしうれふひて候さうう敷く
と見んさそてまわ候りし　せんきんへうつ里をやう
武んはあき乃世このそうかうへ　えんてん
まゐりしそうりえ花山のほうりあひ敷すし
業平(なりひら)のいゐ人へうさのく野辺(のべ)をれうりあろえ
そそうちえらふゆきのあつさ　さいさんいあう
うんきんあうのるそれひを　旅人は忘れける
うれまともせよらうのはまうこを海てゆを
いそはくまと御さき　熊谷こうまあし申うい
いやしくこのさるれは　くひを給くなかうし

ねんしやうにあれうりなまはとて子年しを
たりちさて万年乃よりひかやまれ此物
語りにこまけやさたやと思ひるふいふあれ
まり平家かたまて相わせらる為き事しき義
義乃くまうへとやまのとるこうちきんまて
くこまくんてけへとも是このな後いへに
おもひうへこまけやうりと此物うりけへ
とけくひの立こてまつりよろひに付こう
ちりうちたらひ　るにたきのせこてまつり
な後さまをとりにむまけのりにしをさひく

又町ちうりゆきまきうしろをまんとこてあ
まはをはまんし乃大将にめうて海ふち升た
三川升よつめゆひのたてさしせ又百騎計て
をんうくゆんをこてあまは城田ひら山
ひうへこりめく乃まきにはとひとの七騎て
をんうくるうへ乃山ゆい九郎はさうししたら
たてをさしせはそんしたよにとつてい義義防
無事ゆきたちたうういそん義井かたをら伴勝
援河この人をさ紀としたくしたくしたし
屋うむさし乃くまうへ　まかしきとくんはう

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

うきてふたすくなはいこころとおもひたり二
あろあるなるはくまうへともふうらとれと
まきもしくとをろうくろあのきこれをさま
掛よくしくたゝふまは終乃うらのとらと
うやあしろ乃ひ直のこゝくおくをりていけ
へき屋ういるし人をまうけ戸さんよ里なる我
さほかをりけ後世をそまかしとつゝ
きやと思ひこゝ又むをとゝんてとうと落いて
りしや法首を三川を海らはかきおとし

国立国会図書館　タイトル『あつもり』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

をりとかきとゝめてそなられ給ふ　うまをと
見あまをと見えてまつ門るかゝりなくなきをせさ
あへをはしらいをは郎等かあ門けを紀は首
梅えまきをのとりふをこせ大将此は海へ下
まいり此よりくとまあくら判官は涙して
あらふしきやあのふえいるかしう見しる
ところのはをまをいらふとゆり一とせうら
くらゝや清むかんくまさそ此時下に小
えさせをまとて二くまんの笛ありせをそれ
をは三升寺にてみろくにしうしさ海

道りてえらをは此さいてをまとせ給ふよし
うけさ海りうらなせくまうしせんまで
うらまさせ給ひしとき此姫え平家此事に
海の一門乃をなりまふえんまきよう我められ
しふ志やくまんるまとをあ門りりい姫えふき
よう乃人也とてくさされをうと義ら　けき
一乃たふのこい里屋く志よまて笛此と後者
乃をこゝ志い此人のふき事らうとて大将海
をなりさせ給へ知も志らねををしるへく
皆なりこなそなりしまら　あ門りりいめい

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

かやうにゑいじ法海人をまゐりうろ何と
してあり乃法志ひをまんしさうひやう
乃こ海乃知門めのかうふ変りまそをきゝ
為きそをくり申てあまはとそこもさいくを
あはをこなえましいやしくをくり申さえや
と知りひ志が座乃えこにくり小私一そう
こしらへさん志き二人さふひ一人あひそへ
状我うき志こくめ八鳴のいそ為そをくられ
けり平家いをんなやくえ年二月七日ゟ一
乃こにを知ちうう法こひしまたひして十

三日乃さうてうよ八鳴のいそまたく熊吉か
をくり乃ふひを知るし日屋し海のいそゟ
法くうこ紀みくこの素しるまはそあひたる
うにろうい我とくめ大知んあけく申拾源氏
うこよりをくまうへうまこくし此法うひよ
まうりむ間くはうとまきとのく法うらるる
伴賀乃平内左衛門のせうとのへ申たき子細
乃ゆとたううにこまえいる あらいこり
や平家い一乃たに我知ちういろそるかに落
のひたまはさうるふをんしのせいのうる

色しとも花に眠しめさます　其此程のかう氣
ゆゑ　なまさまろかり枕　ゆめ花ところかす
まろ乃う物　いのちも志らぬ浦ろふ〇こ
うまて物や思ふらんそろかそく花かせしは
源氏のふ〇よと此ゆゑ我さ紀ゆゑとろかい
我さやめ花ちゆけとも東國に書んしてあ
りんといふ色ろ色いけなし　大臣後に絶んして
ふりくなりうこしく世をきようきふなく時
まんかうまきすといふことへい異國にさん
うまいう後てのんうりともあまかくに小船

ふなふかとの事のあるなきそこまかあら
ゆさむ月ゆゑ浦ゆまとありしとき平内
左衛門家そんするみりは此くまりうらん
と屋かさ乃うちへ浦ゆとへいてこれその
日乃志やうそくいなる屋かりしそ見えて
けまさこふ花志ろきうこしらみな志ろおこ
引ちうへかちん乃繧ひられの空にくりを
ゆうしとよせさせやうないたう思にさう
乃ふまひやくこんみうきのす絲あてまさく
ふかこんのさいこそしいとひ花とし此鎧

乃ミの時とかし屋くをまさうえ上門をひ門
をそくさすりなりけしさろくと其ゆゑ上
おひらゆうと志め九寸又ふん此よろひ上縁し
残めて乃目紀けしさいたりけり一尺八寸此
おかさな十文字にさすまくに三尺八寸以ひ
まらしやくとう飛り此さらちひてなしうら
志得しにちらまきし志うえのる紀るさを
法えにつきまれにおとらぬ即ぶともを七八
人あひくしたしふ〇おろしうらのりたりて
ふさそを志とませさくめうひてをしよのする

ちんくまいういきなひもあふうくやとおりひ
志うまそあり　招源民方よりをくまう人う
まさくし乃法りひとハそを何事の子細そや
なくり乃その中さんはあ門りりを熊若う〇
ひりけ中あまり法いさいしきふよ門を法
志ういにいろくの我を其又ハ志ん志やうを
あひそへ兄遠なくり中ていはいそ紀法産ふ〇
ふ法うつしあまとゆそとくふ中ゆくあくふし
きやあ門そりハ一門の法ふ〇にめされあえ
乃なりとふ海しまりすよしを兼くはう屋へう

うらまさせ給ふ色きりし御りりけりてやは
らんたくりの着や清海志んハてうりの海てしく
御りりをはさうし舩中を波濤んせらよとや基西
中らくきかしくあきいいまさうりとてなくり
のふ日本国の舩をなしよせなきさすさをはえん
まはさし なくりの舩残さしう川にふひてこそ
みくきまはまふといろくのめいきの志くろ
むらさ遠りし御りり化清志ひと按摩しき綫
なし清しこてそなきさまきり むらさ化すそ
あの清きせるう ころ孫清くりれ清さう世

十六さいふの そめきの矢 むら志けとう
のらもあり給うふとらのま御しまさをれく
ふれ敗りの思ふしさうふうきうきをからりぬ
まそをくりのふ孫ふのりうりり清志のいみ
いうき川きろけたさくふなきさうしさけ色
とらをし忠いいてさうきり海してありて基国い
なきうさをあうし御うりいりしやさうのつく
の一の若をはいくの時あのきせなうをとそ
ますはの御く御し御さうふあれまりれ御しう
は一門世のよのふましして四海の風のわきき

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

をくはしの中をいはれはひの方にて
はいそきは産ふほよはうつしあまとゆえと
無はくきふしおそひにしはうしはりひ
まれこはとてあ川をりの清志ひ我私ふ
う川し大私にあきよせこのよしうくとゆ
あくろうとまさとのもはほもりをなふあ川
もりうこれこうといふうさんはとゆあら
ふしきやあ川もりを　一をん乃ふほにあり
あをひるとふあつよしを風れたりふ
しおとはいりたりうましうりつつにくま

うへうほよりり　さそはうこまくあり事る
うとくなるこるりふいそ結ふ稱うたうらう
にしりてい稱うぬんをたしめこそまつり
むほとのふよくるん百六十人をもうまれそも
をとり皆ふなるこふらいそく清志ひに
いこきつきをゆめうやうつと一変にし
まつとさけたましをもふよくくたとふ
まはあまやむの釈(しやくそん)の清ふうめつれきさら
きや十大清弟子十六産うん又十二類(るい)に至る
まくわしまひ乃みちの清をけきめく座と思ひ

国立国会図書館　タイトル『あつもり』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

志ろ重なり　屋くあそ又はひりハ扨ろり
なこと乃就まよ重ゑあらむさんやあ川をり
一乃たふを制しとき右ハのかた我見なくり
そろかそけりて立まりしをいさめそやと
思ひあらゆくなりとよあ川りよ　三代
くまいをん乃家をたゝ重かえ孫を野山りし
う川ミ名を前天のくを升よあく色き分う
郎ホ乃ミう目をたちよりしといふてあ重
たさらぬ神まてるきさまてくらり志りふえ
をまれていとそりよ通りしを時とりふ

うへらんと扨りひ法重とも紀みうさま
なし色をそられ又二めとを見さりしなり
るさけあろくまうへりてかたみ　あ重まそ
なくりうりむるしき志ろひ志のうち見れふハ
三川あとよ重ゑのあひしさ後ろ重よりうり
てなくさまんるふ人ことの給ひ法ゝそうへ
あろ重給ひ事り平家うこの人をハ今一志か
乃るミたなり　そ後くまうへ　うさうろ状を
めしいたし大将る重は此状をりし義経をし
なくりてあろう法ろひハ先状をまき間へ可

こくうとまれとのへとまゐりやとそを俳賀
乃平内右衛門へと書る状まそあるなひこ
家長姫ゝ様はりまゐ事　取りはとそふほれ
せうはりひきまつき状をこまりさしあけ
たうゝかふこそふたりけ事　亜実様云不
通ふ此君と兼美しこそまゐしあひこちき
ふせう姫様をゐせんとかゐすうきさゝ儀に
ゆんてきのゆりひをたうし布面民藝れい
さゝきゝ剃るしめこ様くまへこそまゐ事
ふ多せい一とうまきかひ無く東西にあ事ゐ

内ゐう事ゐ多せい気いふせいもんくまい布面
ちやう里やうゝ世い様つくしむこ度しくな様
さまひは生様弓る乃いへふ生事こてゝ様らく
せいりめくらし命を同をちんとうゝゆふ色
せくもんくにゐく自他かくのめんかくを
かくこせりさそ色此こひかるしきうれや此
きゝとな様さ孫ふりくきやくゐんをむまひ
こそまゐるところなけかしきうゐ法さる紀
りなこのあくゐんをひろうへまをのるゝは
なりく生死乃まゐる様ちるまゐ一門もちまの孫

とからんやうんきよのちまよをしめしつ
はれしひ我詠んあろうしとふらひゃ為き事
聞こしいけり後ぜうくまなくはあのをも
むれをしけく法一しんの法中へ法救(ひしう)あり
為くはよりく五姓讃云書んつまやく元年二
月七日むさしのくふの住人熊谷の次ら直実
進上うくすきとのくはうらるゝ伴賀の平内
左衛門尉とのへとよふさりけり

法一門うんうくまいしやうとうねんまあつと
かんし給ひまふや雄若を壺囲(さんごく)ゆくいあおう
雁せつ志ひするんとくはくへしうまさけを
ふりかりまらそや　ふんしやうのこれしや
さよ筆せいのいつくしさよかりく聲さしき
はうのよ返状なくてうなりしと大臣殿ん
志やう我はひりの自筆りあそんしてこゝ
はうひいふをを給りいそき一れ若まあき
ことらくまうへとのふこせさてまれら熊若
いうんとしてゆゑ矣れこやうなくしてハ

禮(子)威(かい)乃法自筆をおうゑさんと三度いたき
ひらいてたいまんはうまはうその法書り
はくく　あれもりう志ひなくひまゆいそう
給りり説はうひらまらくを打立しふ里は
うさなんそ二度思ひ直す度れあるんや　さ
うんなりのをとろふ者をむ志やうれなくむ
あへるものまはう家く事志とれなくひ
志やくそん雁こ雁てんの一子れまれり
あらすや　はんやかんふをやさんわう七日
小打立しふ里以来　はんめきゝ聞くこらへ

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

とまたとうことをみて　きうん法まさ後法う祢
そらに如く法まと後うといへとそのこゝ志を
まうす　さまは枝ゆいせきの　まう後かし
きふよ門く　天に有ふき地ゝしゝあまを
いのう神明のなふ志もふかうの威嚴をまり門
とうろに小よ門く七日ゝうろにあまは我ゝう内
ゆは志んしくをいうしかうに此は威海そそを
記さすよよ門く生まさまうまうあへりき
志つ乃ちういなくしていいくそのまうことを
二ひ思んすまさまふろ志四ゝ此いさたき

ひきう志くさうゝい有ふあさしすんゝ志
をかうせんとすまは色玄如んくうり志り
そきこゝ色んとまは来来度うくうろ物
うちんうんお用といへと筆紙ゝ法くし
うゝし志いむさしの熊苔此うゝし状とそふふ
うり事ろ　さ行に熊苔よくくゝてあまは
かゝいろ心そ如くり事ろ今月十六日にさね
きの八鳴をせあらう色しと申くありまれも
人をうきよりにすりち色くうろ物うき同まを
又な我さ孫やあんすうめ思へ志此世い法ゝ

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

うくてまんしやう黒谷(ちゑ)よろうきよし志やう
孫ん会佛ゆて内たり志りあると紀まん志やう
そろ乃うりは田ふ屋うきのくにに清立あり
当野山へ来らせやと思ひ上人に清いと海ア
清こ乃ふちをひうこまうけ このむ事の名行
乃清え　黒谷我まこ来をこめていくまりう
こやこいて乃名所りひし我なりむまは
せいかんしいまくま頼きよこ川屋さう長栄
当持きよこ川とゆいさうのていれ伯らもん
志よまことを乃さうゆう田村まりの伯こん

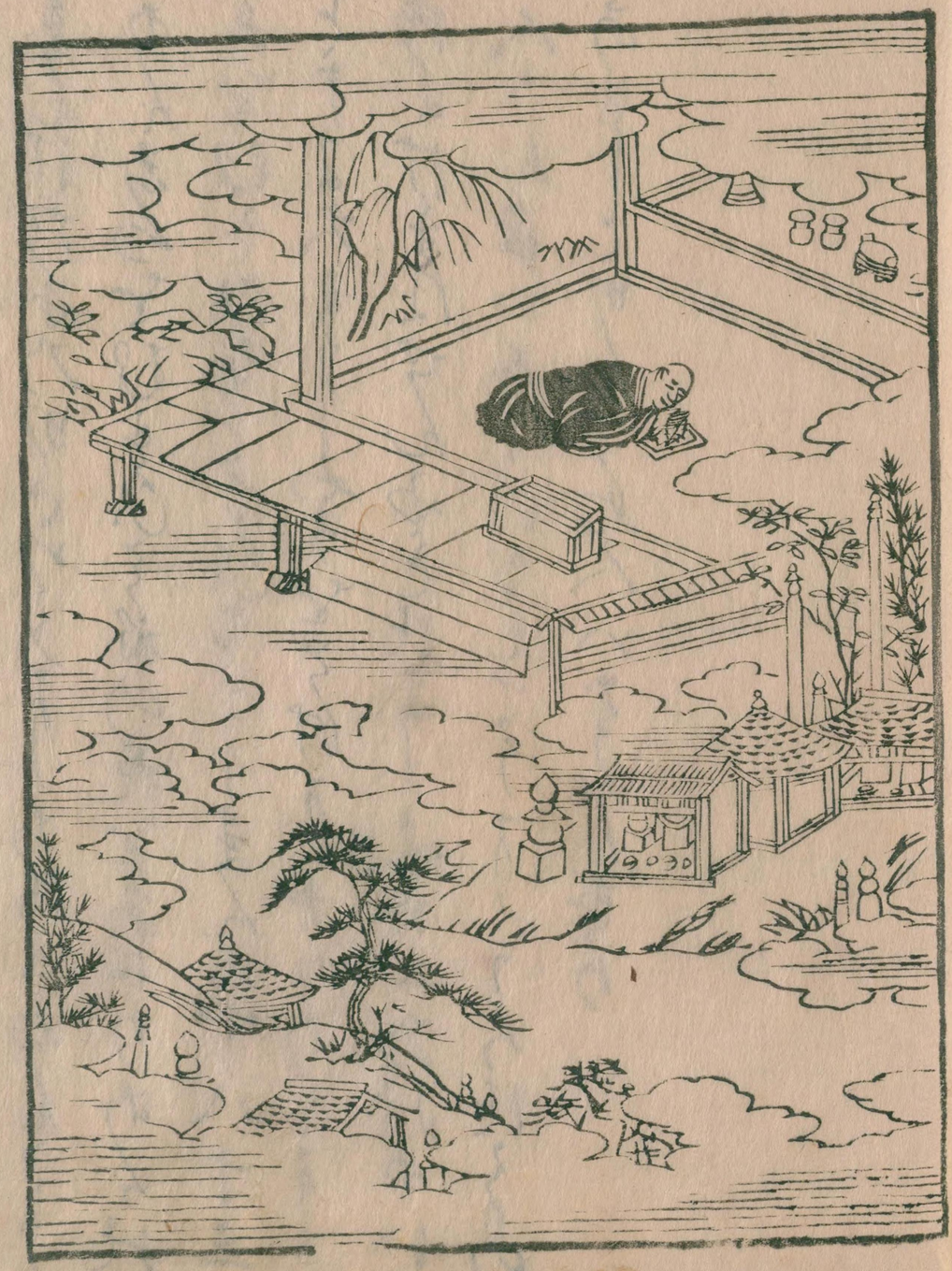
ゆう　こいとう二年たてられよろ川れ
なとけ乃らもんよまをせんしものちりひい
このりしやあ川りりれ志やうまやうとんせう
なこいと志かうして　西をなりむまをこん
ちふ志ひのやまなりくらよこふれこうこ孫
乃こう　きこを海く見をくれた　うら頼我
いてくまんこい野　ふるをり屋よれ　ちり
志ゆし　こうりなこもせきあん可南を
なりむまはとうしさいし田塚(つか)とし名ゆけ
とをおひもせぬむ川多ぬりりとこうりなりぬ

国立国会図書館　タイトル『あつもり』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

山さんたちてしきことのゐんをうりまき
屋さんのやまを下向してあれこうのみこれ
法かりせしうこのくちらをとゝ得りきん屋れ
きしハ子をゆりふうと野に志けきませうき
乃屋くを直まけいくこのちくか川れ見う
しをかしおりこ天王寺屋そまりきり
ちんまう志とゆ名雲樓太子の法くるんなりも
かしきのきさ海あうハ掛りともつきす南し
慈井乃あのあのまたこぬそたのとかりきる
とかしおりこうひこ天野にまいらるし大明

神とゆハ高野乃ちんしゆて掛ちします法山
に法師城さ川けくたちせこ海へと称んあり
きせいゆてちや高野山へ来らるくうしけ
なくこ高野山とゆ名ていせいをさんて二百
里きやう里をちるまむにんしやう八えうれ
こ称八川乃たにかしとしてきしたうしせい
らんこまゑをあらせとゆ夕日乃うけのとう也

あふかのてらよりみるいふうの昔ふいさう
ういの大日百八十そん拔置うせりさて又大
ふうよりしほくのぬんへ元元大日の三十
七そんを置うせりらんふうのぬんそんあわ
志ゆくなうしやうこと釈迦あまた又大師の出
給るり大ふうと申いるんてんのてらたうを
両なんてさそのてんのちん里をめことりす
六丈乃なうたうこといふ子ふいの所ことゆ中い
子志也乃二十八姫志也志也薬師の十二祢
志やうしく世こそりきんなく成生あくしまよの



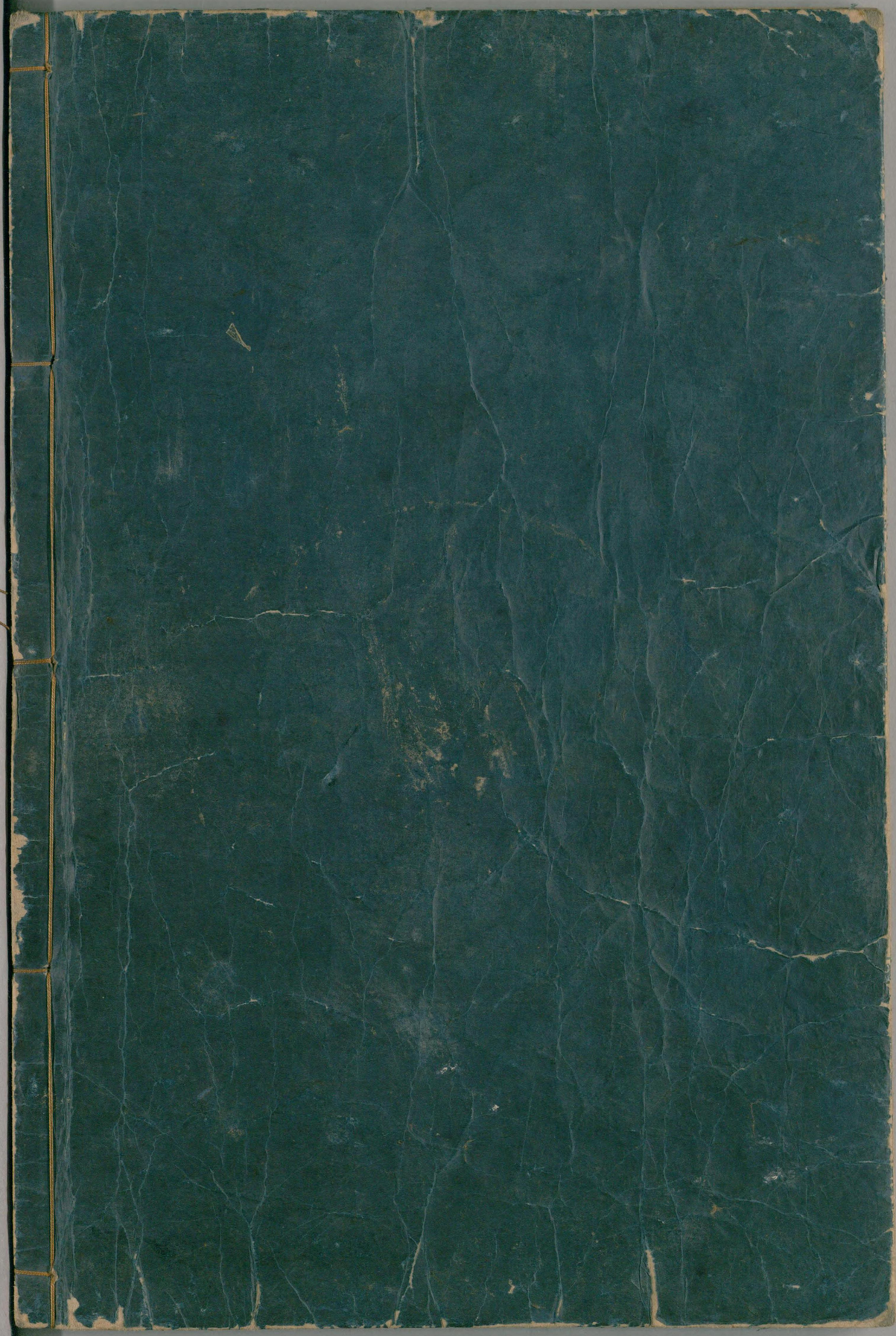
国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

別13
25
28

まんけたふ乃かくりけりちしきゐんとや
あんしつをひとひこ孫の花を多ゆりあり此
あをむとひをこうひをまし まんしやう八十三
とやまは大まうしやうをとけけまりあくけ
法よけまはせんゆをはよし文義(ぞんぶ)二段此めい
人うん家ハしこれかんてうけうろはるの
あもしとかんせぬ人いなりけまり

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-28
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『あつもり』　請求記号　本別13-28

ガラス使用